

学内の活動

Craft, Fabrication and Sustainabilityプロジェクト

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]と岐阜県立森林文化アカデミー、株式会社TABが参加するプロジェクト。それぞれの持つスキルやノウハウ、手法を共有し、手仕事とデジタルファブリケーションを組み合わせた持続可能なスモールビジネスのためのプラットフォームをつくることに挑戦している。今年度の主な活動として、第5回展開図武道会の開催、岐阜県立森林文化アカデミーとの連携授業「デジタルファブリケーションの導入」、IAMAS 2017における学生作品のプロセス展示に取り組んだ。(詳細はプロジェクト成果報告書に記載)

システム委員会

学内の基盤となるネットワークや共用備品等の運用に関して提言や調査を行った。また、ガイドブックや年度当初に行うeラーニングに関して共同でコンテンツのメンテナンスを行った。

学外の活動

Ogaki Mini Maker Faire 2016

Ogaki Mini Maker Faire 2016は岐阜県大垣市のソフトピアジャパンにおいて2日間に渡って開催したDIYの祭典で、146組(約300名)の出展者と約6000名の来場者が参加した。電子工作やロボット、クラフト、ペーパークラフト、電子楽器、サイエンス工作、リサイクル/アップサイクルなど、様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさを共有する機会をイベントとして提供することで、個人や教育機関、企業などで様々な立場でものをつくる人々のコミュニティを醸成することを目的に開催した。

前回に引き続き総合ディレクターとして参加した今回においては大きく3つの試みをした。まず、2週間前には、東海地区に次いで出展者の多い関西地区からの出展者のネットワーキングを目的に、京都でプレイベントを開催した。また、前日には著名なSF作家の野尻抱介氏をゲストに招いた前夜祭トークセッションを開催し、日本におけるメイカームーブメントとMaker Faireの展開を振り返った。さらに、展示に関してはデジタル工作機械を備えた市民工房「ファブ施設」の特集を設けた。ファブ施設は全国に120箇所あると言われており、今回はそのうち1割が出展したことになる。それらの施設に対して特設スペースを用意してブースでの出展を行えるようにしたり、レーザー加工機メーカーの協力を得て普段の状態に近い状態でワークショップを行えるようにした。出展内容に関しては、地方開催で会場の空間に余裕があることを活

かした大型の作品や展示に特別な配慮が必要な作品の展示に加えて、単につくったものの販売だけでなく、実際のその場で体験しながら楽しめるような比較的長めの時間をかけたワークショップが増えたのが今回の特徴だったと言えるだろう。



図1:Ogaki Mini Maker Faire 2016メイン会場の様子

もし次回開催するとすれば5回目となるため、単に単発のイベントで終わらず、開始前から大垣を中心としたメイカーのコミュニティをつくれるような仕掛けを試みたいと思っている。さらに、そうした人々の活動が根付いて文化になるところまで長期的な展望で取り組みたいと考えている。

<http://ommf.iamas.ac.jp/>

Field Hack

Field Hackは、エンジニアリングやデザイン、マネジメントなど多様なスキルや視点、経験を持つ人々が全国から集まり、フィールドワークを通じて見つけた地域の可能性や課題をもとにアイデアをつくり、短期間で集中してプロトタイプとして実装することに挑戦する取り組みである。

Google の「イノベーション東北」および「Engadget日本版」と共に立ち上げ、2016年5月に宮城県牡鹿郡女川町で開催した第1回には33名が7つのチームとして参加、同年11月に岩手県遠野市で開催した第2回には21名が5つのチームとして参加し、それぞれのチームから多様なプロトタイプが生まれた。プロト

タイプの一部はイベント期間終了後も現場での実装に向けて継続しており、イベントへの参加をきっかけに地方へに拠点を持つことを実施あるいは検討した参加者もいる。これらのことから、Field Hackは地方におけるクリエイティブな人々の在り方を協働創造との接点を模索するのに有効な手法となる可能性があり、次年度以降も継続して開催していきたいと考えている。(詳細は2016年度の本学紀要に研究ノートとして掲載)

☞<http://www.field-hack.com/>

共同研究

文部科学省・科学技術振興機構による「革新的イノベーション創出プログラム(センター・オブ・イノベーションCOI STREAM)」の1つ「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」に関してポリシーグループのリーダーとして研究に参画した。この研究の成果として、2016年5月26日にハードウェアやソフトウェアをオープンソースで公開するプロジェクトのための利用規約、およびその解釈を具体例で示したFAQ「オープンソース・プロジェクト・ポリシー」を法律の専門家である弁護士の監修のもと作成し、日本語版と英語版で同時に公開した。このドキュメントに関しては、同年10月8日に米国オレゴン州ポートランドで開催されたオープンソースハードウェアに関する国際会議「Open Hardware Summit 2016」で口頭発表を行った。

☞https://github.com/IAMAS/open_source_project_policy

なお、この他に株式会社 電通との共同研究「デジタルテクノロジーを使った地域社会の課題解決」にも取り組んだが、2017年度も継続して行う長期的な研究プロジェクトであるため、今年度の段階では研究成果に関する公開は行わない。